ことば
言葉
コトバ

“ナビゲーター”の行方

このところ，NHKの番組で，さまざまな“ナビゲーター”たちが活躍している。ニュース番組『NEWS WEB 24』（総合）では，毎回，“ネットナビゲーター”がアナウンサーとともに，ツイッターで寄せられる視聴者からのつぶやきを拾い上げる。大型番組では，個性豊かな俳優やタレントが“ナビゲーター”として，視聴者を番組の核心へといざなう。NHKアーカイブスの記録を見る限り，2012年だけで，50を超える番組で“ナビゲーター”が登場している。

「番組の進行役」という意味で使われる“ナビゲーター”だが，そのもとになっている英語navigate（航海する）は，ラテン語のnavis「船」とagere「操縦する」からできたことばで，navigatorとは，もともと「航海士」という意味である。ここから転じて，「自動車ラリーなどで助手席にいて運転者を補助する人」や「航空機・ミサイルなどの進路を自動調整する装置」などを指すようになった。日本でも，パリ・ダカールラリーのニュースなどで，1980年代あたりから，外来語としてよく耳にするようになった。しかし，「番組の進行役」としてのnavigatorは，主な英和辞典を引いても確認できない。英語ではpresenterやhost，hostessなどのほうが一般的だ。

では，“ナビゲーター”の「番組の進行役」という意味は，いつどこから来たのか。過去の『現代用語の基礎知識』（自由国民社）をのぞいてみると，“ナビゲーター”は，1983年から外来語として掲載され，96年には，その意味のひとつに「ディスクジョッキー」が加わっている。確かにFMを中心としたラジオ番組では，DJを指すことばとして“ナビゲーター”が定着している。ラジオから使われだした“ナビゲーター”がテレビにも浸透しつつあるのが，日本独自のnavigatorの歩みのようだ。

くしくも同じ96年には，VICS＝道路交通情報通信システムが始まり，世の中にカーナビが一気に普及した。目的地にいざなってくれる夢のツール。その“ナビ”人気にあやかってか，同じ96年，NHKでは，ハイビジョンの実用化に向けて制作した『ハイビジョンでこんにちは』で，アナウンサーが「ハイビジョンナビゲーター」として登場している。

それから，およそ15年余り。当時，「司会者＝“ナビゲーター”」だった役割は進化を遂げ，一層の表現力や“人間力”が求められる時代になっている。2年前，ようやくマイカーにナビをつけ，喜んでいる私としては，時代に取り残されないようにせいぜいふんばりながら，テレビの“ナビゲーター”がどこまで進化を続けるのか，日本語としての“ナビゲーター”がどんな航路図を描こうとしているのか，その行方を見守っていこうと思う。

滝島雅子（たきしま まさこ）